



統計スポット情報

No. 37

12.4.28 福井県総務部情報政策課

知ると重宝な、景気動向指数（DI）

巷では、「景気」という用語がテレビや新聞などをにぎわしています。景気は目には見えませんが、経済の状態を反映するものであり、図のように好況と不況の局面を周期的に繰り返します。

景気が上昇傾向にあり「好景気」であれば、みんなが“HAPPY”なのですが、今は残念ながら、各種の業況判断などから回復への動きはあると報じられているものの、いつ景気の谷を脱出したのか、あるいは本当に谷を脱出しているのかどうかなどについては微妙な状況にあります。

そこで、景気を判断するには、客観的な基準に裏付けされた指標にもとづくことが重要となります。

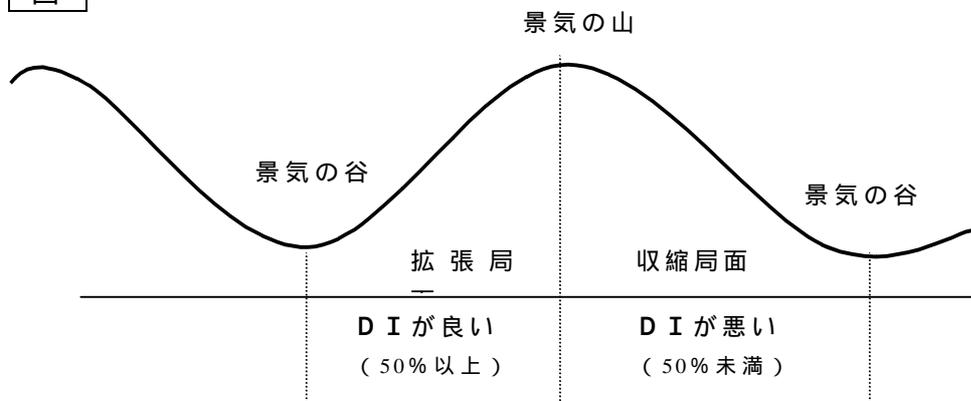
ここで登場してくるのが「景気動向指数（DI）」です。

この指数の動きによって、景気の変動状況を統計的に確認し、景気が拡張（上昇）局面にあるか収縮（下降）局面にあるかを判断し、景気の山や谷を判定することができます。また、将来の景気動向を予測する手掛かりにもなります。ただし、実際の景気の山や谷を判定する際には、他の主要経済指標の動きや専門家の意見も勘案されますが…。

景気動向指数には、現在の景気に対してほぼ一致して動く経済指標を集めた一致系列、景気に先行して動く経済指標を集めた先行系列、さらには、景気に遅れて動く経済指標を集めた遅行系列の3系列があります。一般的には、一致系列が連続して何ヶ月も50%を超えるようですと景気は拡張局面にあり、逆に、連続して50%を下回るようですと景気は収縮局面にあるとされています。

紙面の都合上、景気動向指数のしくみについて詳しくお伝えできませんが、県では毎月20日頃に利用の説明を添えてこの指数を発表しています。

これを機に、もっと身近に付き合ってみてはどうでしょうか。



学生時代に習った

関数と微分（接線）の関係

傾きが正 上昇

傾きが負 下降

極大(小)値 景気の転換点 と似ているような感じ